



## 広瀬館少年少女消防隊の 継続的な防火活動 —「火の用心まわり」94年の伝統—

富山県南砺市 広瀬館地域づくり協議会  
理事 上田 伸一



### 1 はじめに

富山県南砺市広瀬館地区は3集落の戸数180戸余りの地区です。この小さな地区に、90年以上も続けられている「広瀬館少年少女消防隊」があります。1年生から6年生の小学校児童が毎月2回、地域の消防屯所前に集まって、赤地に白で「火の用心」と染め抜かれた旗を先頭に、「拍子木」や「振り鈴(りん)」を鳴らして、「火の 火の 用心 火の用心…」の歌い出しで始まる「火の用心の歌」をうたいながら地区内をまわり、住民に防火を呼び掛けています。おそらく、全国でも小学校児童だけで、これほど長く続いている



火の用心まわりの用具

る消防クラブ活動は皆無とされます。

### 2 広瀬館少年消防隊の結成

この消防クラブは大正15年11月20日、小学校児童25名による「広瀬館少年消防隊」として結成されました。「七曜の中、火曜日の火は一夜にして千戸を焼く」の故事により、毎週火曜日が“火の用心まわり”の巡回日となりました（現在は毎月第2、第4土曜日に巡回）。

### 3 火の用心まわりの様子

「地区の防火思想の高揚を図り、クラブ員の防火意識を高める」というクラブの目的は、大正15年の結成当時から変わらず、毎週火曜日に学校が放課後の夕方、小坂、祖谷、館の3集落の1年生から6年生までの児童が、集落ごとに3分団に分かれて公民館に集まり、分団長（6年生児童）の指揮のもと、出席点呼の後、「火の用心」の旗を先頭に、拍子木、手振り



火の用心まわりの様子

鈴にあわせて「火の用心の歌」をうたいながら、集落内を巡回し地区民へ防火を呼びかける形態は、90年を経た今でも変わることなく続けられています。また、名称は昭和22年に「広瀬館少年消防クラブ」に変更されました。



以前は冬の時期も行われていた（三八豪雪の年）

#### 4 消防クラブの運営と今後の展望

創設時から昭和46年まで、広瀬館小学校の教職員が指導員として運営の任を担っていました。しかし、小学校が統合されたことに伴い、広瀬館地区にその運営のすべてが移管されることになり、クラブ員の父兄や地元消防団が運営や指導を受継ぎました。

近年、広瀬館地区の児童数は20人未満に激減し、分団によってはクラブ員が2～3人しかいない分団もあり、士気が上がらず、クラブの存続が懸念される中、自治振興会、消防団、集落自治会、クラブ員の父兄が中心となり、クラブ存続に向けての検討会がもたれました。そして現在の児童のニーズにあった新たなクラブに再編成して、再スタートすることになりました。

平成28年5月28日（土）、3つあった

分団を一分団とし、児童の負担を考慮して週1回を月2回とし、名称も「広瀬館少年少女消防隊」に変更し、児童の安全性を考慮して父兄が交代で火の用心まわりの見守りを兼ねて一緒に巡回するなど、“新規一転”新たな形で「火の用心まわり」がスタートしました。

また、新たな活動の試みとして、広瀬館地域づくり協議会が、地域ぐるみで一人暮らしの高齢者宅を見守る体制と連携して、一人暮らしの高齢者宅を訪問して防火のチラシを配り、「火の用心」を呼びかけるなど新たな活動の幅を拡げています。



一人暮らしの老人宅を訪問

#### 5 安心で安全な住みよい地域づくりを目指して

現在、結成94年目を迎え、いく度かの低迷期を乗り越え「火の用心まわり」の伝統を守ってきました。これからもクラブの目的である防火思想の高揚を図り、地域住民への防火意識の呼びかけながら「クラブ結成100周年」に向けて、地域住民と一丸となって伝統ある「広瀬館の火の用心まわり」が、“火災のない”安心で安全な住みよい地域づくりの一助になってくれることを願っています。